

臨床研究へのご協力のお願い

東京医科大学病院整形外科では、下記の臨床研究を東京医科大学医学倫理審査委員会の審査を受け、学長の承認のもと実施いたしますので、研究の趣旨をご理解いただきご協力をお願いいたします。

この研究の実施にあたっては患者さんの新たな負担(費用や検査など)は一切ありません。また個人が特定されることのないように患者さんのプライバシーの保護には最善を尽くします。

この研究の計画や研究の方法について詳しくお知りになりたい場合や、この研究に検体やカルテ情報を利用することを了解いただけない場合などは、下記の「問い合わせ先」へご連絡ください。ご連絡がない場合には、ご同意をいただいたものとして研究を実施させていただきます。研究に参加されない場合でも診療上の不利益を被ることはありません。

[研究課題名]

重複性絞扼性神経障害に対するブロック注射の有用性に関する調査

[研究の背景と目的]

上肢の神経絞扼性障害は末梢神経の通り道が狭くなることにより生じる神経障害で、しびれや疼痛、麻痺などを引き起こします。病態は複雑で数本の神経の症状が入り組んでいる場合や複数箇所でも同じ神経の通り道が狭くなっている場合があります。このような場合には診断、治療が難しい場合があります。当科ではこのような方にブロック注射による治療を行っております。厚生労働省により保険で認められた治療ですが、報告が少ないため有用性を明らかにすべく調査を行っております。有用性を示すことで診断、治療の難しい同疾患の患者様の今後の治療にお役に立てるものと考えています。

[研究の方法]

対象となる方

上肢の神経絞扼性障害の患者様で 2012 年 4 月 1 日から 2019 年 9 月 30 日までに当科で診断し、ブロック注射で治療した方が対象です。

研究期間

医学倫理審査承認日から 2023 年 3 月 31 日まで

利用する検体やカルテ情報

治療による改善の有無や記載していただいた疼痛などの評価スケールを用いて研究を行います、

検体や情報の管理

情報は東京医科大学病院内で管理しデータ公開時は匿名のデータとして扱います。

[研究組織]

研究責任者： 東京医科大学整形外科学分野 助教 永井 太郎
研究分担者： 東京医科大学整形外科学分野 教授 西田 淳
研究分担者： 東京医科大学整形外科学分野 講師 小山 尊士
研究分担者： 東京医科大学整形外科学分野 講師 立岩 俊之
研究分担者： 東京医科大学整形外科学分野 助教 東儀 季功
研究分担者： 東京医科大学整形外科学分野 助教 畠中 孝則
研究分担者： 東京医科大学整形外科学分野 主任教授 山本 謙吾

[個人情報取扱い]

試料や情報は研究対象者識別コードを用いて匿名化したデータとして取り扱います。データの管理は東京医科大学病院整形外科内に鍵をかけて管理します。
試料や情報の管理責任者を研究責任者とします。

[問い合わせ先]

東京医科大学病院
整形外科
助教 永井太郎
03-3342-6111(東京医科大学整形外科学分野)